

主日礼拝

2026年8月2日 10時20分～
司式: 奏楽:

「きたえられる」

《神の招き》

前 奏 『主よ、あわれみたまえ』 J.S. バッハ
招 詞 ヨブ記22章21節
賛 美 歌 373

《神の言葉》

祈 禱 聖霊の照らしを求める祈り
聖 書 申命記10章12節～11章1節 (旧約282頁)
ヘブライ人への手紙12章3～13節 (新約407頁)

子ども説教
信徒の証し
賛 美 歌 510
交 読 詩 編 94編8～15節 (112頁)
賛 美 歌 529
説 教 「きたえられる」 八木浩史牧師
祈 禱
賛 美 歌 528

《感謝の応答》

信 仰 告 白 使徒信条
献 金
祈 禱 献金当番
主 の 祈 り (週報表紙、ホームページ掲載)

《派 遣》

頌 栄 24
祝 福
報 告 8月誕生者祝福
後 奏

『申命記』でモーセは、「あなたの神、主があなたに求めておられることは何か」とイスラエルの民に問いかけます。その答えは、主を畏れ、その道に歩み、心を尽くし、魂を尽くして主を愛し、主に仕えることです。しかしそれは人間の努力だけで実現できるものではありません。だからこそモーセは、「心の包皮に割礼を施し、二度とかたくなになっってはならない」と語ります。外面的な宗教行為ではなく、神によって心そのものが造り変えられることが求められているのです。神は偉大で力あるお方であると同時に、孤児や寡婦を顧み、寄留者を愛される憐れみ深いお方です。その神を知ることによって、私たちの心は神を愛し、隣人を愛する者へと変えられていきます。

『ヘブライ人への手紙』では、信仰者の歩みが苦しみを伴うことを教えています。信仰者に降りかかる試練は、神に見放されたしるしではなく、父が子を鍛えさせるように、神が愛する者を鍛え育てておられるしるしです。「鍛錬」はその時には喜ばしいものではなく、苦しく感じられます。しかし後には、それによって鍛えられた人々に義という平安な実を結ばせます。私たちは苦しみに出会うと、「なぜ私だけが」と問いたくなります。しかし聖書は、苦しみの中でこそ神が私たちを見捨てず、御手の中で練り上げてくださることを示しています。その模範が主イエス・キリストです。主イエスは罪人たちの激しい反抗を忍び、十字架の苦しみを耐え抜かれました。その歩みを見つめるとき、私たちも失望せず、信仰の道を走り続ける力が与えられます。

礼拝当番: (役員:) 献金当番:
音響: 映像: